

清潔・誠実・実行力

市議会議員

深山たかし

上尾に活力 地域力向上



議会リポート

広報「黒字」表現は はたして妥当か

私は、以前より上尾市が市民に対する情報公開姿勢に疑問を感じておりました。

市には、正確な情報を公平な立場で市民に伝える義務があり、説明を行わなければならない責任があると思います。

私は、昨年十二月議会と今年三月議会で、上尾市は財政が厳しいと言われ、各方面の事業を縮小し、事務事業の見直しもしているにもかかわらず、広報あげおでは実質収支「黒字」表現となっているのは、市民に誤解を招くため、表現方法の是正を求めておりました。先月十一月「広報あげお」が各家庭に配布され、十七年度の決算が公表されました。

だが、今回の広報も相変わらず実質収支「黒字」と記載されておりました。

「黒字」となった理由には、全く触れられておりませんし、難解な専門用語や言い回し「実質収支」とはどういうことなのか、実質収支が「黒字」だどういう意味があるのか。詳細な説明が必要ではないかと思えます。

さらに、記載内容を見てみると、「国庫支出金」・「地方特例交付金」・「民生費」・「公債費」などの一般では普段使われない「業界用語」を羅列し語句の説明はありません。掲載した表の見方も解説されておりませんでした。

今回の特集は、市民の皆さんに上尾市の財政状況をお知らせするために書かれたはずですが、何のために決算公表をしたのか、作為的な意図が伺えるのではないかと考えられます。

また、自治体独特のバランスシートや難解な専門用語などが多用され、「誰が見ても解りやすく、見やすい」広報誌とはほど遠い様に感じました。

補助金の一律カットや、障害者、高齢者予算の減額など市民に負担をかけておられますので、広報十二月号の決算「黒字」表現は適切ではありません。

市は広報の重要性を認識すべきであると考えておりますし、市民に対し行政運営が適正に行われているかどうか判断して貰う責務があると考えます。

今後、情報公開のあり方を含め、提言を続けて参りますので、ご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

歴史資料館の 設置について

どこの自治体でも、その地域で育まれた、歴史や民俗があると思いますが、現在のところ上尾市には、文化財や歴史資料を保存・公開する常設施設がありません。

都市化が進み、昭和期以前の農村風景や民具、伝承文化など保存が急務と考え、一般質問を行いました。

教育委員会でも文化財や歴史資料を保存・公開する常設施設の重要性は、認識しているため、今後検討していくそうです。



桶川市歴史民俗資料館

議員定数削減

上尾市が自由に使うことの出来る一般財源の約八割は私たちの税金である地方税が占めております。

上尾市の職員数は、千五百四十六人（十八年四月一日）で、総支出に占める人件費の割合も四割近くが充てられ、県内自治体の中でも高額に位置しております。

今まで、上尾市は、人員削減が進んでいると説明してきておりましたが、「定年退職」などの自然減で新規採用を控えたため、結果的に削減されたものです。

今後、財政の厳しさが増すなかで、議員自らが定数削減を行い、職員人件費を含む大幅なコスト削減を要求しなければならぬと考え、私の所属する「未来の会」より議員提出議案として、議員定数を二名削減し三十名とした条例を上程。十二月二十日議会最終日に賛成多数で可決しました。

ばんだい上尾荘 閉館について

保養所として市民に親しまれていた「ばんだい上尾荘」が平成十九年三月をもって廃止されることが決まりました。

閉館する主な理由は次の通りです。

① 利用人数は近年回復傾向が見られるものの宿泊利用率は三十パーセント程度であること

② 運営費に五千万円から六千万円程度必要であるのに対し、保養所使用料は一千万円程度であること

③ 建築後四十年が経過しており、施設の老朽化が進んでいる。修繕費用は必要最小限のものに止めているが、近年中に外壁塗装など二千万円程度の修繕料の計上が必要となる。

そのうち七百万円程度は温泉浸漬に要するものであり、この経費は四〜五年のサイクルで必要となること

④ 閣議決定に基づく事務次官通知により、民間と競合する公的施設の合理化措置が地方公共団体にも求められていること

【今後の予定】
平成十九年二月『広報あけお』2月号で市民へ周知
平成十九年三月末日をもって閉館



廃止が決まったばんだい上尾荘

議員四年目を迎えて

平成十九年は、市議会議員選挙の年です。

私にとって、一期目の総決算の年でもあります。

私は上平公民館改修、都市基盤整備、教育関係、情報化推進、環境対策、財政問題、商工施策、福祉施策等、数多くの改善要望、提言を行って参りました。

これまで取り組んできた事柄の達成度、反省点、新たな取り組みなどを自分なりに整理して二期目への活動目標にしていきたいと考えております。

議員の最大の仕事は、市当局の行政をチェックすることです。

市の仕事ぶりや施策が、市民のためになっているか。事業の公平性などを、皆様の代わりにしっかりとチェックする事だと考えております。

編集後記

財政問題を質問して驚いたことに、「役所の常識は世間の非常識」であることが多いということでした。

公表した財務諸表に関連性が見いだせないものや、説明が付かないものが当たり前のように特集記事として広報あけおに掲載されていきました。

行財政改革とは言っても、役所内部の自浄作用が上手く機能していません。今後、取り組むべき課題の一つです。

発行元：深山たかし後援会
発行責任者：深山孝
上尾市大字上1774-7
048(776)0575
fukayama-sov@jcom.home.ne.jp

ホームページは、検索サイト、”深山たかし”で閲覧できます。